

閉会中の調査報告

産業経済常任委員会

○事務事業評価事業説明・市民と議会の懇談会に向けた事前調査

開催日時	令和2年7月16日（木）午前9時27分～11時45分
場 所	東庁舎第4委員会室
出席者	奥村委員長 立入副委員長 森委員 松原委員 桑原田委員 小林委員 （植中議長）
説明員	建設経済部長、建設経済部次長、土木建設課長、 産業振興戦略局長、農林保全課長、産業立地企画室長、 産業立地企画室主幹

・事務事業評価について

道路維持補修事業の概要・・・ 建設経済部から説明

1,347路線、総延長367.1kmの市道の管理において、安全かつ効果的な道路敷を常時確保する重要な事業である。各路線において経年変化や劣化、破損により機能低下する道路施設に対して、早急な安全の確保と機能回復のため、緊急的な修繕が求められている。これらを実現するために円滑かつ迅速な工事発注を行うためのものである。

対象となる案件については、各区長や市民からの要望により、道路の側溝修繕・舗装修繕・防護柵設置等道路施設の修繕を行っており、年間300件程度の要望がある。

事業に対する課題としては、道路構造物等の劣化が起きてから修繕を行っているため、対処療法型による対策を講じているが、計画的に修繕を行う予防保全型への転換が必要である。

また、発注方法として、市内を中学校区4ブロックに分け、事業の偏りの無いよう工夫しているとの説明がありました。

主な質疑と答弁

要望数に対して、対応が100%でないのはなぜかとの質疑に対し、個人的な要望・保留などが含まれているとの答弁でした。

事業費予算固定6,000万円プラスαとなっているが、増額しないのはなぜかとの質疑に対して、大規模な要望については、別枠で取り組んでおり、現行の予算の範囲で事業の実施が可能と判断している。

要望に対しての審査の内容はどの質疑に対して、要望に対して必要か必要でない

か検討し、現地確認のうえ実施の手順を踏んでいると答弁がありました。

・市民と議会の懇談会に向けた事前調査

市内の農業について・・・産業振興戦略局長、農林保全課、産業立地企画室から説明
農林保全課より、農業人口農業組合数 農業者数 認定農業者数 法人経営者数 集
落営農法人数と耕作面積と人・農地プランの農地中間管理機構の説明を受けました。
産業立地企画室より、担い手の農地利用集積状況、農産物の作付面積・品目及び収量
の説明を受けました。

主な質疑と答弁

農事組合等法人化の目的はどの質疑に対して、法人化、大規模化によって利益を出
すことだが、販売価格下落によって利益を出しにくくなっていると答弁がありました。

湖南省農業の課題は、それに対しての施策はどの質疑に対して、土地利用から耕作放
棄地を無くす、後継者の育成、大規模農家の育成、米の付加価値を上げていく努力、独
自産業として特産品開発等を推進していると答弁がありました。

○事務事業評価の実施

開催日時 令和2年8月3日（月）午後1時20分～2時42分

場 所 東庁舎第4委員会室

出席者 奥村委員長 立入副委員長 森委員 松原委員 桑原田委員 小林委員
(植中議長)

7月16日の事業説明を受け、チェックシートによりとりまとめました。

チェックシート上では、委員全員一致して

行政が行うべきことか はい

市が行うべきことか はい

事業内容、規模、手法は適切か ほぼ現行どおり、もしくは 拡大して継続する
必要がある

仕分 ⑥実施 現行通り、拡大

理由 ②事業を拡大して継続する必要

となりました

判定理由、助言の詳細としては

市民生活に直結している道路維持補修及び舗装修繕工事に関しては、設置以来の経年劣化が発生する事案が増えて来ていると推察され、計画的・予防的に取り組めることが理想であるが、発生する不具合に対しては対処療法にならざるを得なく、予防・保全の二面的な対応が必要である。

予算では、道路・側溝及び舗装修繕工事関係で5,000万円、交通安全対策費と防犯灯設置で1,000万円となっているが、毎年要望に対する実施率は8割となっており、マイナス分の約2割は「個人が対応すべきもの」との説明であった。しかし、区や市民からの要望を審査する際に、予算が絶対的な上限となって市民の要望が実施されず、それがマイナス20%を構成する一因となることは避けなければならない。そして、基本は各区長さんによる要望が中心となっているが、各区に加入されている世帯が減少しており、全ての市民の声が反映されているとは思えません。市民の声に真摯に耳を傾けて、区長要望だけでなく取り組むことが大事だと考えます。

交通安全対策は、予算に対しての実績数は、職員の努力・工夫もあり上がっているが、成果を図る指標は、利用者の感覚と事故数の減少であり、その面からみると予算付けが、まだまだ不足していると思われ「通学路対策」「交差点での見通し対策」等に焦点を当てて、予算付け・事業計画をされることを望みます。不足した時は補正で対応する等、すべての要望をこなすことが望まれる。本事業は市民生活の基本であり決しておろそかにされることなく拡大して進めていくことを強く要望します。

また、毎年「道路管理瑕疵による事故」が発生していることも踏まえ、補正予算も視野に入れながら道路維持補修事業の適切な実施が求められる。予算の増額をして事業の拡大を進めるべきと考えます。

○市民と議会の懇談会（産業経済常任委員会）報告

開催日時 令和2年8月6日（木）午前10時00分～11時30分

場 所 市民産業交流促進施設ここぴあ研修室（2）

出席者 奥村委員長 立入副委員長 森委員 松原委員 桑原田委員 小林委員
（植中議長）

集落営農組織出席者

（農）エコビレッジ妙感寺、（農）未来ファームなつみ、（農）平松ファーム

（農）柑子袋営農、（農）朝国農業生産組合、アグリ正福寺、各組織1名

各集落営農組織から出された課題、意見交換の集約

- ・農業は人がいなければなんともならない。
 - ・どの団体も後継者不足、収益悪化問題に悩んでいる。
 - ・コメ需要の衰退、販売価格の低下、収量を上げてても利益が出ない、後継者がいない、農地を守るための目的、赤字覚悟で農業を続けている。
 - ・機械化も進めてきたが、今が限界で、またその維持・更新費用で悩まされている。
 - ・果樹・野菜等への転作の努力はしているが、土壌問題・獣害問題・人手不足等がありなかなか採算ベースに乗せられない。
 - ・このままでは、「農地の森林化（耕作放棄）もやむなし」「5年後～10年後にはやり手が無くなる」などのご心配が出るのは、地域・日本の農業にとって大きな損失である。
 - ・農業者の努力が報われる、利益の出る、生産の慶びを味わうことのできる農業への抜本改革が急務であると思われる。
 - ・議員には今回の懇談会を実施してアウトプットをしっかりとしてほしい。
- などの意見を聴取しました。

以上